令和3年産 水稲栽培ごよみ（普通期）620運動：適期（6月20日前後）田植えでうまい米づくり

ＪＡおおいた東部事業部

監修 大分県東部振興局 ＪＡ全農大分県本部

月	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
品種／旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ ヒノヒカリ にこまる			播種期	（苗をつくる）	元肥	田植期	（体をつくる）		幼穂形成期	穂肥 （穂をつくる）		出穂期	（実をつくる）			刈取期		
水管理									土用干し	間断			かん水		落水	※刈取前10日頃まで		

病害虫防除と予防

旬	病害虫名	防除時期	農薬名（粉剤体系）	農薬名（粒剤体系）	散布量	注意事項
5月上旬			塩水選	塩水選		●籾枯細菌等の予防のため、必ず実施する。
5月中旬	センチュウ 馬鹿苗 いもち病		スミチオン乳	スミチオン乳	1000倍	●籾枯細菌病の多発のおそれがあるので種子消毒は必ず行う。
5月中旬			テクリードCフロアブル	テクリードCフロアブル	200倍	
5月下旬	●立枯病		●タチガレエースM液剤	●タチガレエースM液剤	500倍	●溶液を箱当り500ml灌注する。
5月下旬	●カビ		●ダコニール1000	●ダコニール1000	1000倍	
6月中旬	もんがれ病 イネミズゾウムシ ウンカ類 いもち病 ニカメイチュウ	田植前日又は当日	スクラム箱粒剤	スクラム箱粒剤	1箱当り50g	●粒剤散布後は散水する。
6月下旬	●スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）		●スクミノン	●スクミノン	2kg	●発生量多い時は4kg
7月下旬	●ニカメイチュウ ●ハマキ		●トレボン粉剤DL		3～4kg	●ハマキムシ発生時に散布する。
8月上旬	●稲こうじ カメムシ類 いもち病 もんがれ病 ウンカ類			ゴウケツモンスター粒剤	3kg	●出穂の2～3週間前までに。
8月上旬		8月上中旬	●Zボルドー粉剤DL		3～4kg	●出穂の10日前までに。
8月中旬		8月中旬	バリダ粉剤DL ノンブラストレ		4kg	●後に落水し株元に十分散布する。
8月中旬	●穂いもち	穂ばらみ期	●ブラシン粉剤DL		4kg	●穂に集中散布する。
8月下旬	カメムシ類 いもち病 ウンカ類		ダブルカットスタークル粉剤DL または ブラシンジョーカー粉剤		3～4kg	●灌水散布する。
8月下旬	●もんがれ病		●バリダシン粉剤DL		4kg	●株元に十分散布する。
9月上旬	秋ウンカ類 カメムシ類	穂揃い期	スタークル粉剤DL	スタークル粒剤	3kg	●穂に集中散布する。

基幹防除

（粉剤体系）	スミチオン乳 テクリードCフロアブル	スクラム箱粒剤	ノンブラストレバリダ粉剤DL	ダブルカットスタークル粉剤DL または ブラシンジョーカー粉剤	スタークル粉剤DL
（粒剤体系）	スミチオン乳 テクリードCフロアブル	スクラム箱粒剤	ゴウケツモンスター粒剤	スタークル粒剤	

◎適用防除は稲株の観察から

◎農薬散布は適期敵量、マスクの着用

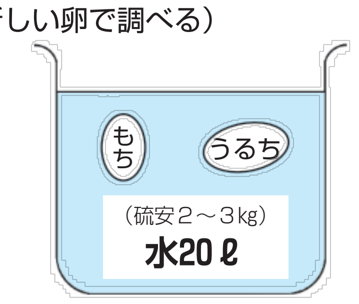
○乾燥
水分は14.5%～15.0%とし過乾燥にならない様に注意する。

○刈取
籾が80%程度黄化した時刈取る。

液剤体系

時期	適用病害虫	薬剤名	希釈倍率
8月上旬	ハマキ	パダンSG水溶剤（劇）	1,500倍
8月上中旬	稲こうじ病	ドイツボルドーA	2,000倍
8月中旬	ウンカ類 ハマキムシ	MR.ジョーカーEW	2,000倍
8月中旬	紋枯病	モンカットフロアブル	1,000倍
9月上旬	いもち病	ブラシンフロアブル	1,000倍
9月上旬	ウンカ類 カメムシ類	スタークル液10	1,000倍
9月中下旬	秋ウンカ カメムシ	スタークル液10	1,000倍

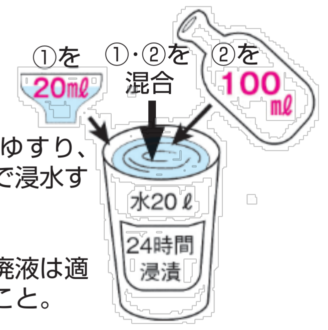
塩水選
（新しい卵で調べる）



種子消毒
※二剤混合を必ず行う 籾 1斗（10kg程度）

①スミチオン乳 ②テクリードCフロアブル

シンガレセンチュウ予防



③籾袋をよくゆすり、薬液が中心まで浸水するようにする。

④種子消毒の廃液は適切に処理すること。

作業メモ

土づくり	種子消毒	播種日	基肥施用	箱苗施薬日	田植	初期除草剤散布	中後期除草剤散布	病害虫防除	無人ヘリ散布	穂肥施用	出穂	稲刈
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日 ～ 月 日	月 日	月 日	月 日	1回目 月 日 2回目 月 日	月 日	月 日	月 日

農薬飛散防止対策として、安全な粒剤体系を実施しよう！

肥料・農薬のご購入は、お近くのＪＡ窓口へ！！

除草剤

区分	除草剤名	使用量/10a	田植前 －7日	－4日	－3日～－1日	当日・田植後 1～14
初期処理剤	サキドリEW	500mℓ	代かき後	使用禁止	使用禁止	
初期処理剤	デルカット乳剤	500mℓ	代かき時	代かき時	使用禁止	
一発処理剤	バッチリLX1キロ粒	1kg				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	サラブレッドKAI1kg粒	1kg				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	エンペラー1キロ粒	1kg				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	バッチリLXフロアブル	500ml				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	サラブレッドKAIフロアブル	500ml				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	クサトッタ粒剤	3kg				移植時～移植後７日（田植同時処理装置で使用可能）
一発処理剤	エンペラージャンボ	25g×10				移植直後～10日（初期剤との体系防除の場合はやや遅らせる）
一発処理剤	バッチリLXジャンボ	40g×10				移植直後～10日（初期剤との体系防除の場合はやや遅らせる）

区分	除草剤名	田植後日数（14～50日）	使用上の注意
中後期剤	レブラス1キロ粒剤	14～50	10a当り1kg
中後期剤	クリンチャーバスME	15～50	10a当り1000mlを100ℓで落水後に散布（落水散布）
中後期剤	バサグラン粒	15～50	10a当り3～4kg（落水散布）
中後期剤	バサグラン液	15～50	10a当り500mlを100ℓで落水後に散布（落水散布）

※水稲用初期処理剤の使用時期に注意してください！ 移植前の使用は農薬によって異なりますので使用後の日数は十分に注意をしてください。「除草効果」の安定と「水系の環境保全」のため、必ず守ってください。

施肥基準（10アール当り）

品種名	土づくり肥料 肥料名	施肥量	基肥 肥料名	施肥量	穂肥 肥料名	施肥量
ヒノヒカリ にこまる	粒状ミネガード または ミネラルG	80kg 200kg	化成肥料10-16-16	50kg	化成肥料16-0-16	20kg
			化成肥料12-18-14	40kg		
			エムコート477	40～50kg	不要	－

土づくりが基本です
1. 国東半島は河川に珪酸分が少ないので毎年ミネガード80kgが必要である。（秋落地帯は鉄分を多く含むミネラルGが望ましい。）
2. 堆きゅう肥10アール当り1～2tを施用し、耕起する。
3. 麦稈か生わら10アール当り0.4～0.5tを施用し、硫安または石灰窒素を20kg散布して耕起する。

以上は秋冬期に施用する

農薬使用の基本ルールを守りましょう！

- □農薬を使う前には、作物、使用方法を必ず確認しましょう！
  - ・農薬ラベル確認、使用量・希釈倍数等
- □防除記録は、必ず残しましょう！
  - ・農薬名、散布日、使用量、濃度、収穫前日数
- □対象作物以外に農薬が飛散・流出しないようにしましょう！
  - ・周辺圃場の生産者との連絡、風がない時を選んで、ノズル等のこまめな調整
- □農薬使用後の管理もしっかり確認しましょう！
  - ・器具の洗浄、空容器や不要農薬の適正処理、保管庫の施錠等
- □生産者の安全は、自ら実践で！
  - ・十分な睡眠、不浸透性防除衣、手袋、農薬用マスク、保護眼鏡、長靴、帽子の着用等

◎過乾燥に注意し良質米を生産しよう。 適期田植でうまい米づくり 米は全量農協へ！